

保水性舗装の効果確認

夏季の熱中症予防へ期待

大成ロテックら

大成ロテックは、岡山県立大学、信州大学、横浜国立大学、大阪産業技術研究所と共同で、夏季の暑熱環境の緩和で実績がある路面温度上昇抑制舗装の効果について、人の人体生理量を測定することでその有用性を実証した。通常のアスファルト舗装と比較し、人の皮膚温で1度以上低くなることなどを確認できた。今回の実証で、同舗装の夏季の熱中症予防への期待が高まりそうだ。

路面温度上昇抑制舗装は、路面に特殊な塗料を塗布し、太陽からの近赤外光を効率よく跳ね返す「遮熱性舗装」や雨水・散水した水分を舗装内に保持し、水の気化熱で舗

装の熱を奪う「保水性舗装」のことを総称して指す。今回は、ブロックタイプの保水性舗装を使い、路面温度や気温などの環境物理量に加え、人の皮膚温や発汗量、心拍

数をはじめとする人体生理量を実測し、人に対する効果を検証した。

結果、通常のアスファルト舗装と比べ路面温度で20度以上、気温で2度、人の皮膚温では1度



人工気象室での実験状況

人体熱負荷量の明確な低減を確認。特に、足元の涼しさは顕著で、地面に近い子どもや車いす利用者などに有効な舗装となることを実証できた。